



# 2026年3月期（1Q）決算説明資料

データセクション株式会社

2025年8月21日

証券コード：3905



1. 2026年3月期（1Q）実績
2. 2026年3月期 計画
3. AI関連新規事業
4. 新株予約権の行使状況
5. 新株予約権に係る発行登録
6. Appendix

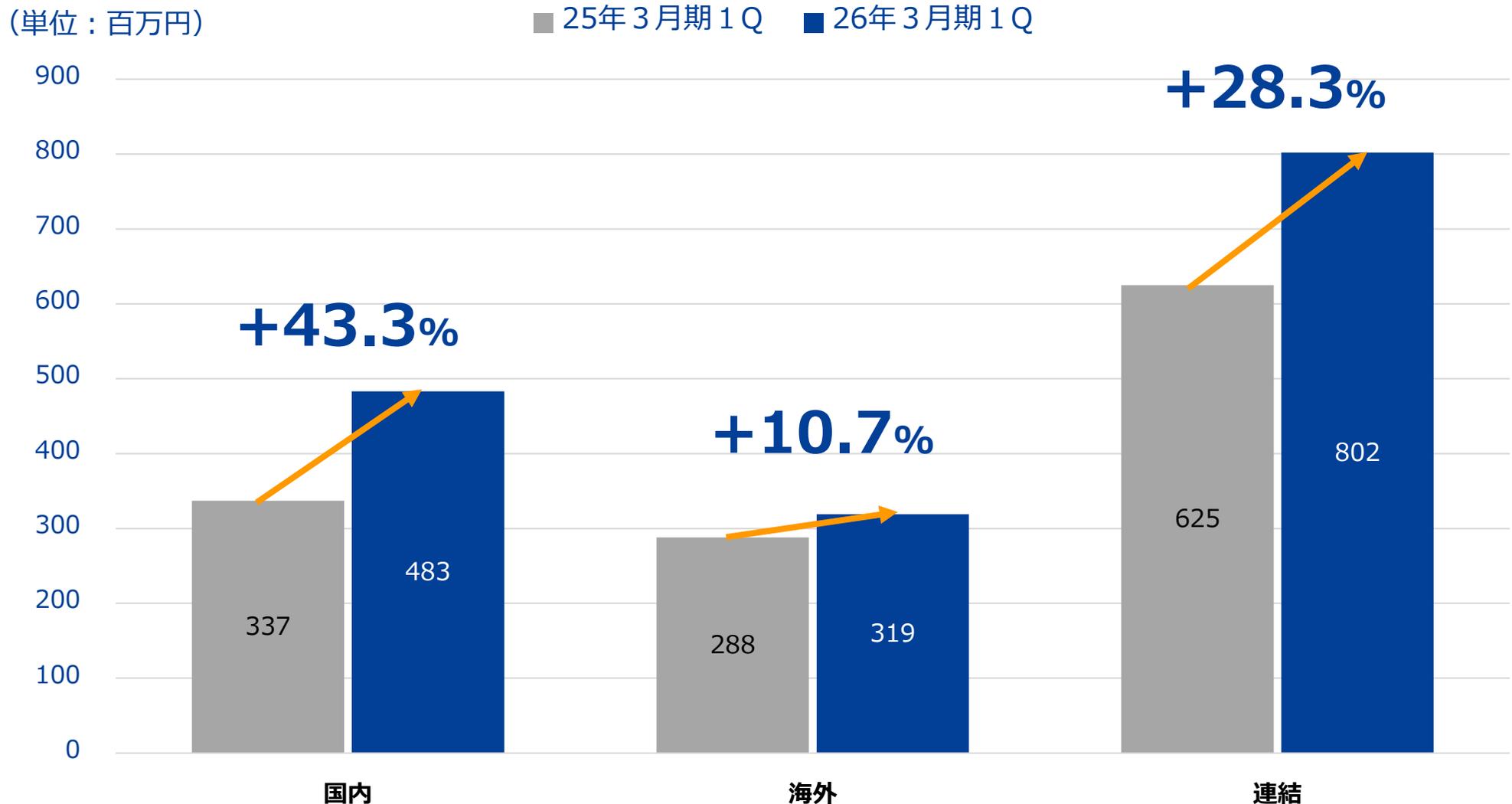
# 1. 2026年3月期（1Q）実績

- ・ 既存事業の体質改善、新規AIデータセンター事業構築の両方にフォーカス
- ・ 既存事業に関しては、国内事業全領域における受注の堅調な推移に加え、2024年7月1日付で完全子会社化したMSS社の寄与により、増収（前年比+23.9%）

(百万円)	26年3月期（1Q） 実績値	前年対比	
		実績	差分
売上高	<b>668</b>	539	+128
営業利益	<b>▲342</b>	▲91	▲250
調整後 EBITDA*	<b>▲195</b>	▲22	▲173
経常利益	<b>▲317</b>	▲84	▲232
親会社純利益	<b>▲333</b>	▲93	▲240

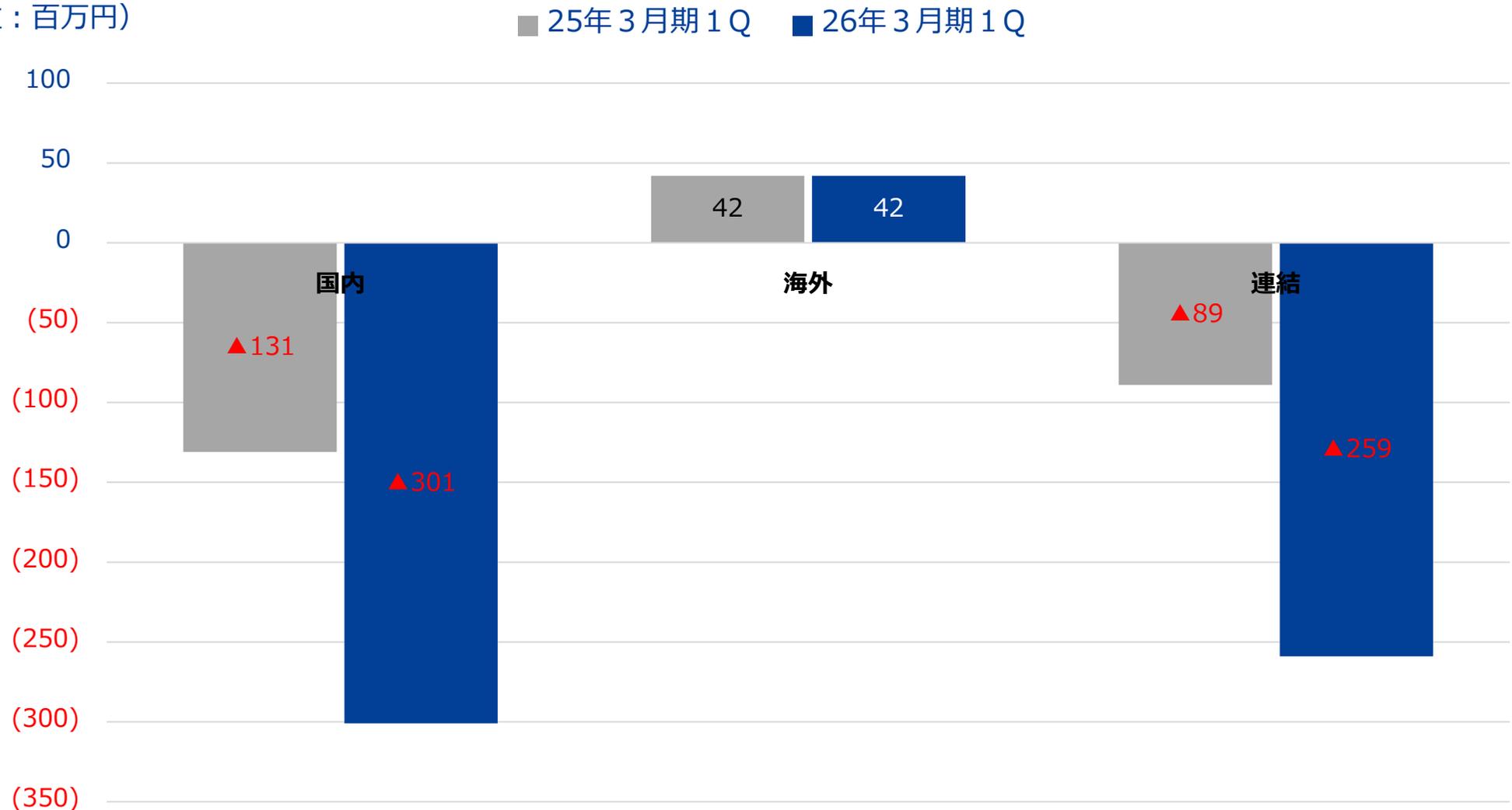
(\*) 調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

- ・ 国内・海外ともに成長を継続
- ・ 既存事業のポートフォリオ転換計画どおり、国内事業が成長をけん引



- ・ 新規事業関連費用は国内で計上しており、新規事業関連投資が主となる損失を計上
- ・ 海外は、過年度のソフトウェア開発の償却負担を要因に減益となるも、計画の範囲内

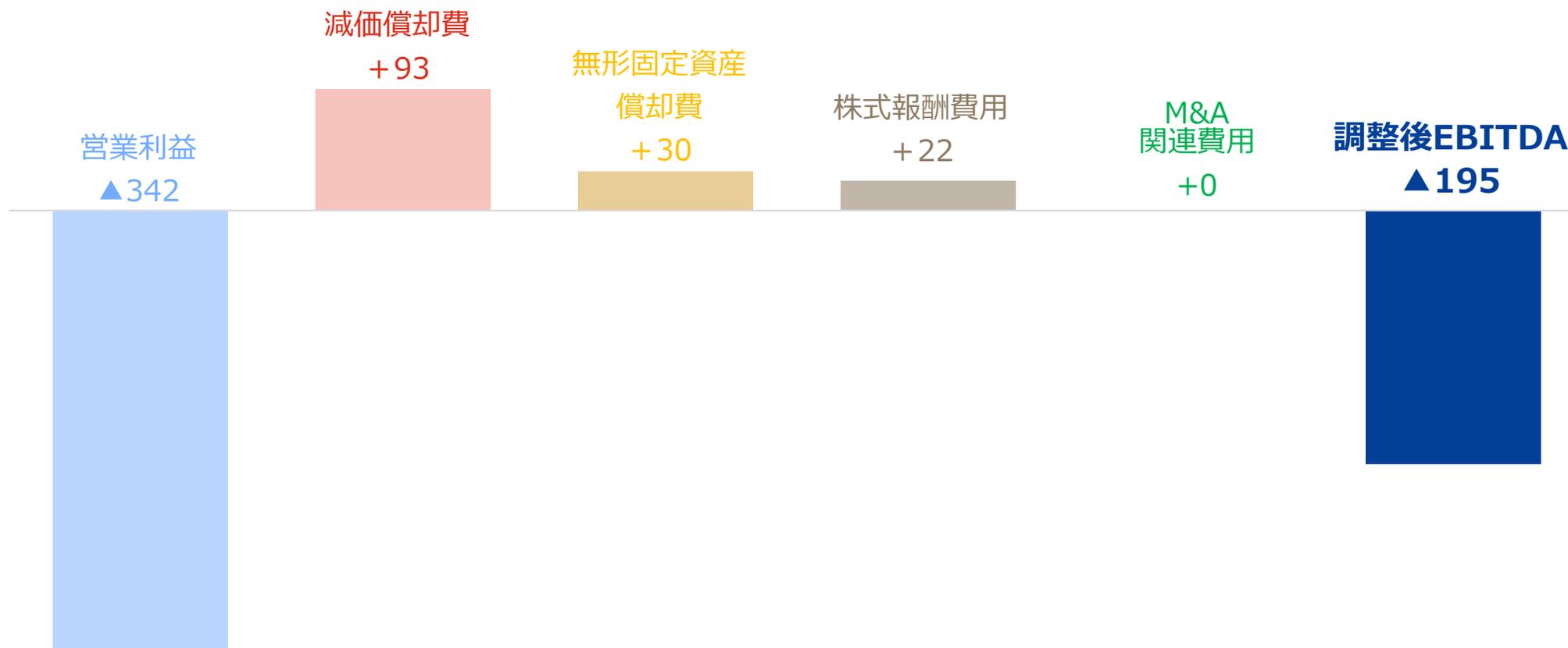
（単位：百万円）



- 実質的なCF創出力を示す調整後EBITDAは、年度ベースで黒字化を予定

※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

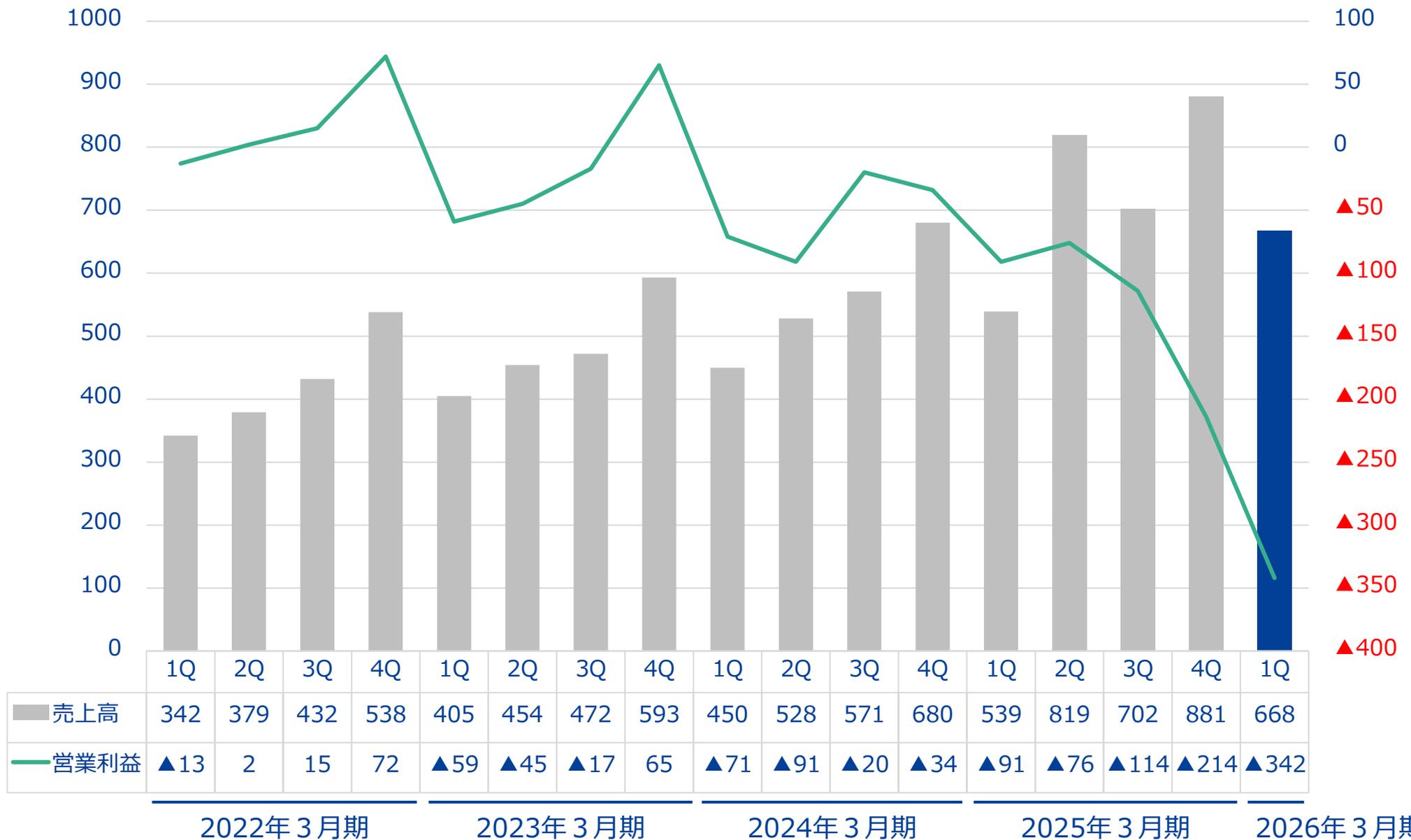
<26年3月期1Q実績>



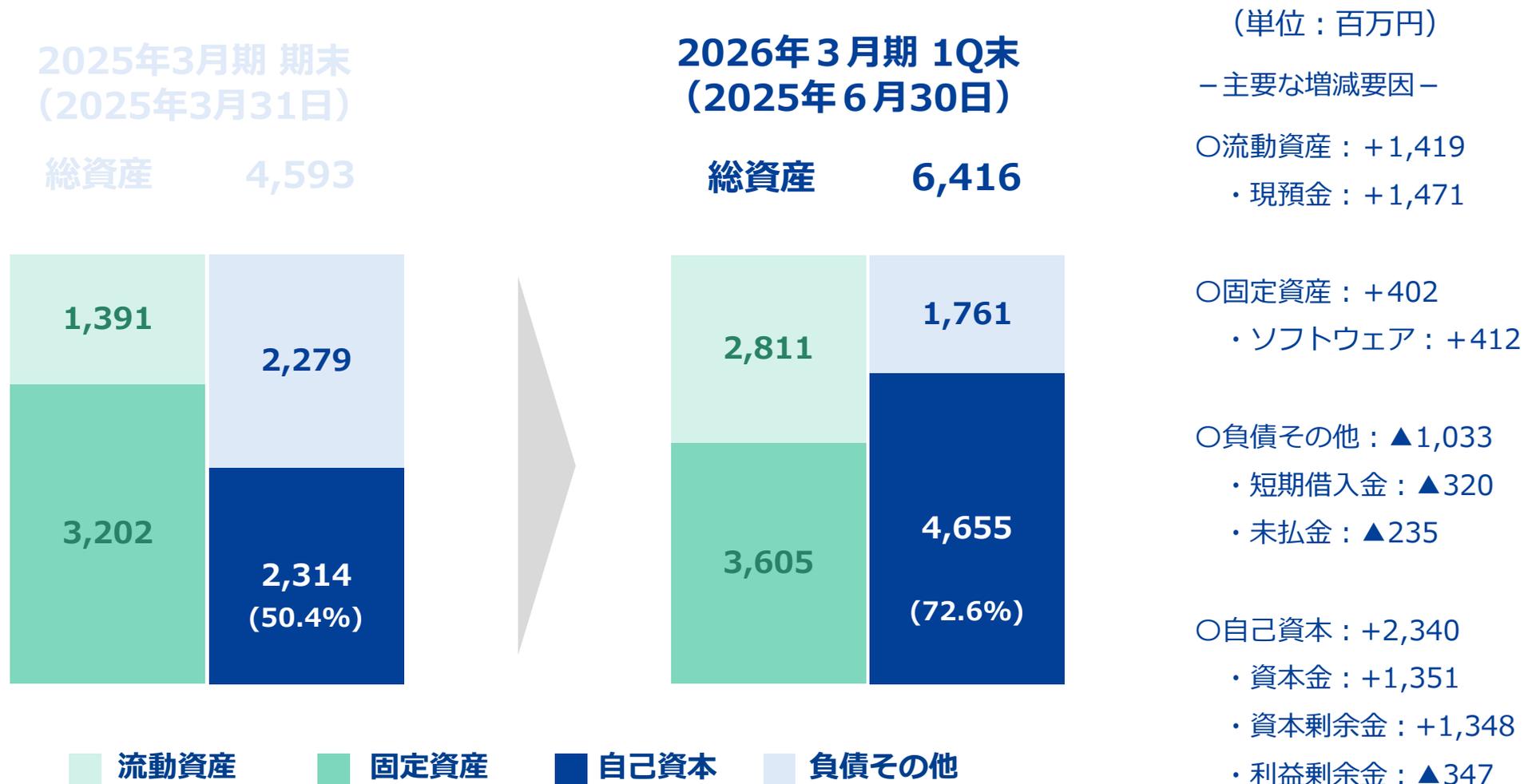
# 四半期毎売上高・営業利益推移（連結）

1. 2026年3月期（1Q）実績

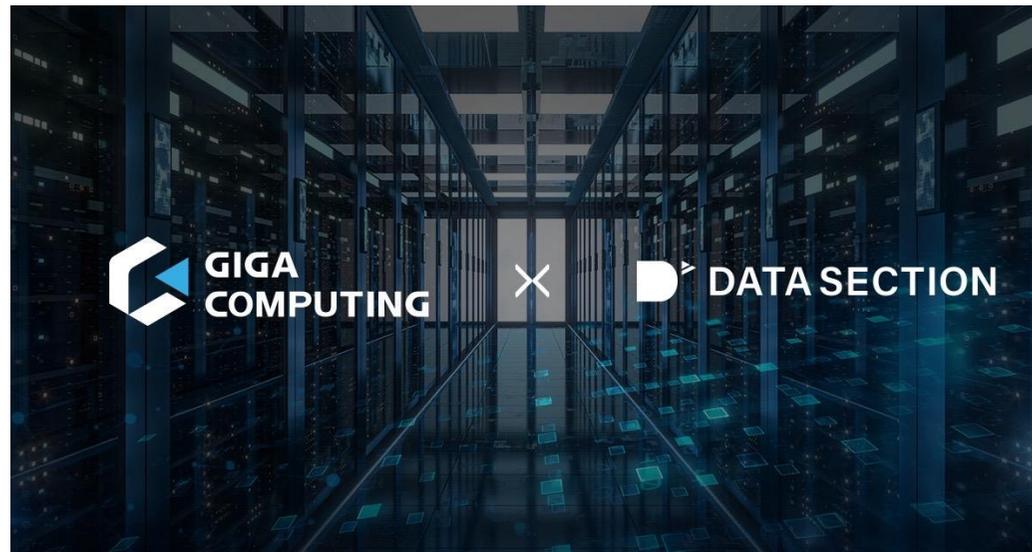
（単位：百万円）



- 2025年3月6日割当の第20回新株予約権（行使価額修正条項付）の行使により、資本金及び資本剰余金が増加



- ・ NVIDIA B200 GPU (5,000個) 搭載サーバー (625台) の調達に成功し、日本初となる最先端かつアジア最大級のAIスーパークラスターを大阪府内に構築予定
- ・ データセクションはアジアにおける AI インフラストラクチャーの主要プロバイダーとしての地位を確立し、欧州市場への戦略的拡大も既に進行



- ・ アジア有数のサーバー機器サプライヤーのGIGA Computing Co., Ltd. (以下「GIGA社」) との戦略的パートナーに基づき、信頼性の高いGPU搭載サーバーの供給を確保
- ・ 当社がアジアで最も信頼されるクラウドサービスプロバイダーとしての地位を獲得するというミッションにおける重要なマイルストーン
- ・ 日本市場で NVIDIA B200 テクノロジーを最初に導入することで、当社は現在の需要に応えるだけでなく、地域全体の次世代 AI イノベーションを支えるインフラ基盤を確立

- ・ 業務提携先である GIGA社との間で、NVIDIA 製 B200（5,000 個）搭載のGPUサーバー（625 台）一式の取得にかかる売買契約を締結



- ・ 潜在顧客である世界最大規模のクラウドサービスプロバイダーからの要請を受けて、国内に開設予定の AI データセンターに導入するため、GIGA社から、NVIDIA 製B200（5,000 個）搭載のサーバー（625 台）一式を取得
- ・ 取得資産の内容

(1) 資産の名称	GPUサーバー 一式
(2) 取得金額	272百万USドル（予定）

- 業務提携先であるナウナウジャパン株式会社を通じて、間接的に、世界最大規模のクラウドサービスプロバイダーである顧客との間で、本 AI データセンターサービスにかかる大口の利用契約を締結

- 受注の内容

受注内容	AIデータセンターサービス利用契約
受注金額	年間135,342千USD ※契約期間は3年間、当社意思による2年間延長可能 (3年間総額：406,026千USD、5年間総額676,710千USD)
売上計上時期（予定）	2025年9月から期間按分計上

- ・ データセクションはアジア有数のサーバー機器サプライヤーである台湾台北市に本社を置く GIGA Computing Co., Ltd.との戦略的パートナーシップに基づき、NVIDIA B200 GPU（5,000 個）搭載サーバー（625 台）の調達に成功
- ・ その第一陣として、このGPUサーバーの一部が、本日、当社AIデータセンターに到着



## <進捗状況>



出典：当社撮影を編集

## 2. 2026年3月期 計画

- ・ いよいよAIデータセンター事業が立ち上がり、新たな成長フェーズに
- ・ AI関連新規事業による収益の顕在化により、売上高は16,419百万円、営業利益3,173百万円を予想。主にGPUの減価償却費などを除いた調整後EBITDAは8,554百万円  
 ※本予想には直接投資型の新規AIデータセンターを1案件（後述）のみ含み、M&Aなどによる収益は含まず。また、AIデータセンターの案件パイプラインは複数あり、今後、合理的な数値の算出が可能となった段階で都度、業績予想を追加修正

(百万円)	25年3月期 実績	26年3月期業績予想		
		金額	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	2,942	<b>16,419</b>	+13,476	+458.0%
営業利益	▲496	<b>3,173</b>	+3,669	—
調整後EBITDA*	▲169	<b>8,554</b>	+8,724	—
経常利益	▲613	<b>2,511</b>	+3,125	—
親会社純利益	▲654	<b>2,048</b>	+2,703	—

(\*) 調整後EBITDA : 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A関連費用

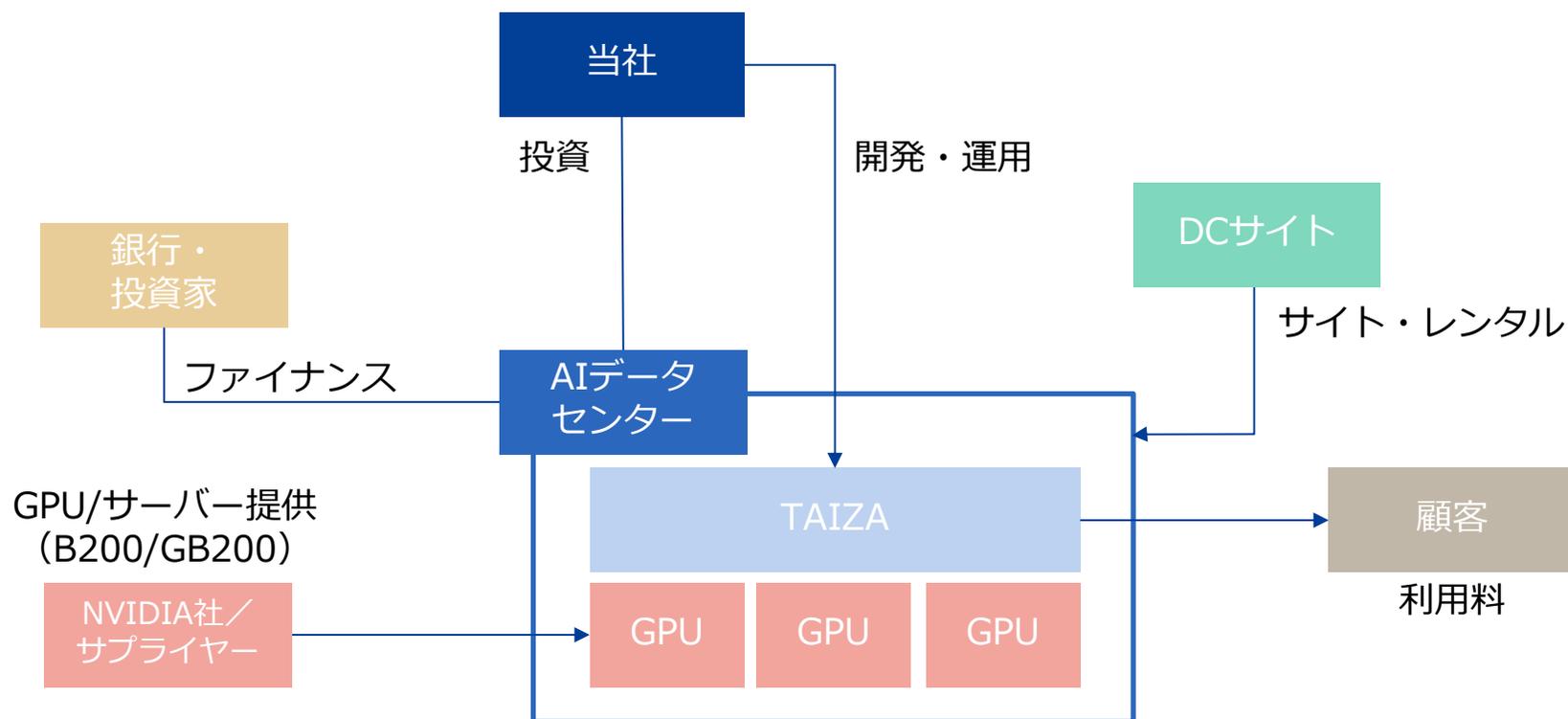
- ・ いよいよAIデータセンター事業が立ち上がり、新たな成長フェーズに
- ・ AIデータセンターの案件パイプラインは、本年度内に立ち上げ予定の複数案件が進んでいるが、本業績予想には、1案件（日本国内でNVIDIA社製のB200を5,000個（サーバー625台））のみ含む
- ・ 当該案件以上の規模のとなる大型見込1案件も契約協議中。更なる大型案件を含む、国内外で進行中の複数案件の詳細がそれぞれ確定し、適正かつ合理的な数値の算出が可能となった段階で都度業績予想を修正する方針とする
- ・ また、M&Aなどによる収益増の予想は含まず

(百万円)	計画	補足説明
売上高	16,419	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 直接投資型の新規AIデータセンター1件の年度内稼働開始</li> <li>・ 2025年9月から2026年3月までの7か月間の売上高 11,526百万円</li> <li>■ その他TAIZA関連</li> <li>・ 売上高 2,000百万円</li> </ul>
営業利益	3,173	
調整後EBITDA	8,554	

- B200は、日本でも導入が進んでいるH100と比較して、3倍のトレーニングパフォーマンス、15倍の推論パフォーマンスを実現\*
- 5,000個のB200の顧客利用からは、年間売上197億円規模、プロジェクト利益50億円、プロジェクトEBITDA135億円規模が複数年見込まれる
- グローバルでの旺盛な需要を受け、年度内に、国内外で複数案件を同時に進め、今期中に業界における圧倒的な競争優位性を確立していく
- 今後、GB200の大規模導入も進め、AIスーパークラスターの構築を目指す
  - プロジェクトA： B200 5,000個（今期予測に含む）
  - プロジェクトB： B200 10,000個
  - プロジェクトC： B200 20,000～40,000個規模
  - プロジェクトD： GB200 70,000個（1,000ラック規模）
  - プロジェクトE： GB200 100,000個（1,500ラック規模）
  - プロジェクトF： . . .  
などの案件に取り組み中
- 数百億円規模の営業利益の早期達成を目指す

\* 出典：NVIDIAのウェブサイト「NVIDIA DGX B200」紹介ページ

- ・ 今期（26年3月期）予想に含む第1号のAIデータセンター案件は「直接投資型」を想定
- ・ 当社の計上する収益は「TAIZAの利用料」となる
- ・ 一方で、アップフロントでの顧客から一部代金受け取りやプロジェクトに対する融資確保等によりAIデータセンター構築費を自前で確保することで、収益を最大化。外部資金を活用する「ファンド投資型」よりも当社収益の最大化が可能。そのため第1号案件は「直接投資型」である、以下のストラクチャーを採用
- ・ 今後、顧客、案件特性、案件規模、パートナーなどに応じて、柔軟にAI事業ストラクチャーを検討



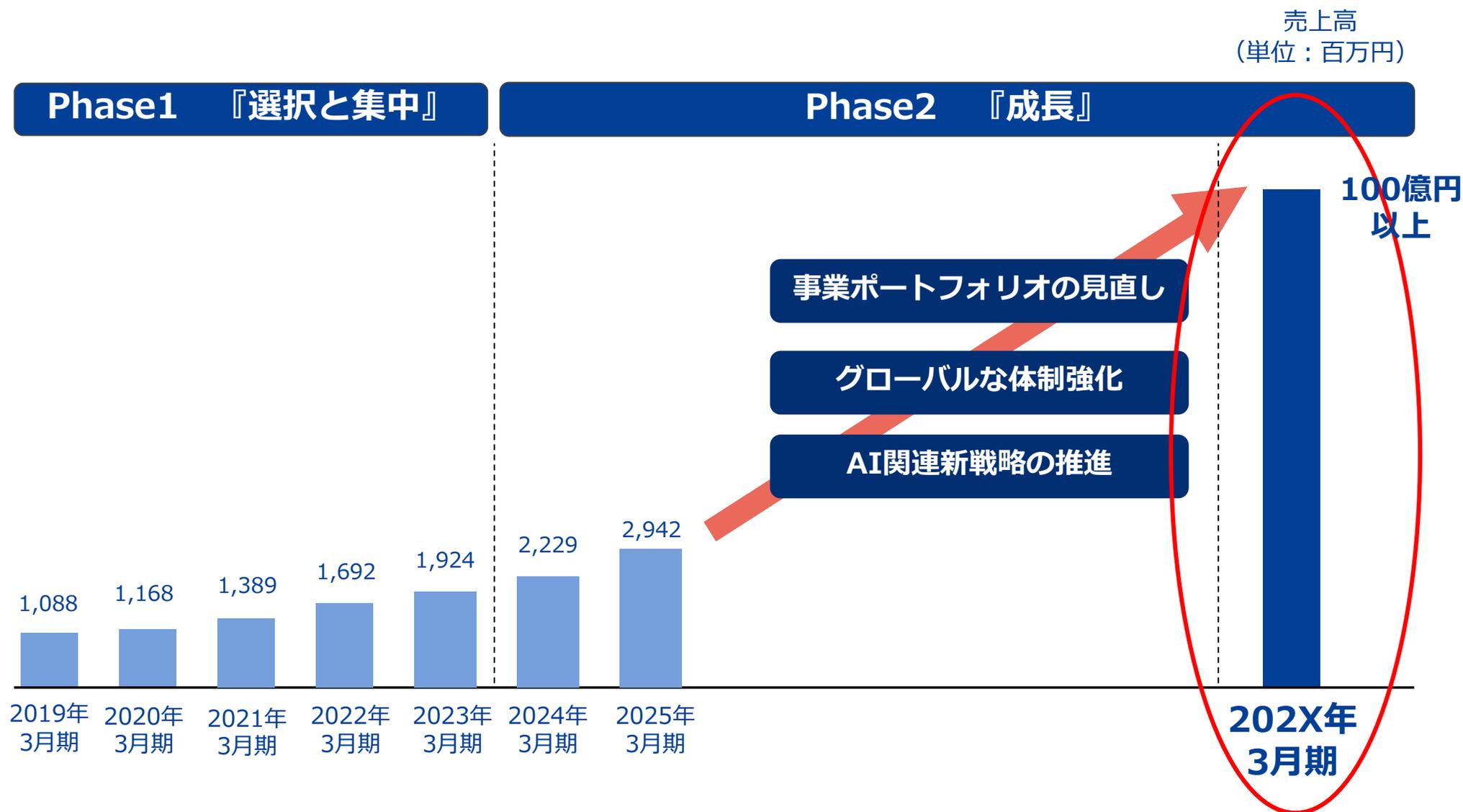
- 世界的にGPUへの需要が高まる環境下において、GPU獲得競争は一段と激化している。一方で、日本企業は、GPU獲得競争において後れを取り、国内AIインフラ構築は、未だ期待された成果を見せていない  
そのなか、当社第1号となるAIデータセンターでは、NVIDIA製次世代GPUアーキテクチャ「Blackwell」を採用したB200を5,000個配備することで、現段階で、日本国内そしてアジアにおいても最大規模のパフォーマンスを有するAIデータセンター構築を予定
- B200は、日本でも導入が進んでいるH100と比較して、3倍のトレーニングパフォーマンス、15倍の推論パフォーマンスを実現\*
- 今期、積極的にB200及びGB200の導入を進めるが、プロジェクトを構成する様々な要因から、大規模クラスターの構築を実現できるのは、日本企業としては当社のみ（サプライヤーとのパートナーシップ戦略により、B200を5,000個確保可能な調達力は、国内企業としては圧倒的）
- 大規模クラスターの運用を可能とする「TAIZA」が、業界での優位性を更にけん引。「TAIZA」はグローバル顧客によるテストを経て、高い評価を受けている

特殊な地政学的環境下において、日本で世界規模のAIインフラを構築することで、デジタル赤字を改善し、あらゆるセクターでの経済成長を後押しする

\*出典：NVIDIAのウェブサイト「NVIDIA DGX B200」紹介ページ

# 3. AI関連新規事業

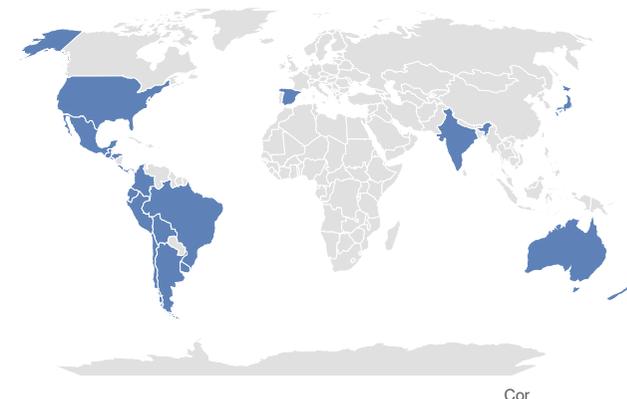
『選択と集中』から『成長』フェーズへ  
AI関連新戦略の推進



強力なグローバルプレゼンスと  
独自のビジネスプランをベースに、  
AI市場でのリーディングカンパニーを目指す

- 新規事業を加速する上で不可欠な技術確保を加速
  - ・ 優秀なエンジニアリングリソース確保
  - ・ AIクラウドサービス向けプラットフォーム開発
- AI業界で強力なパートナーシップ・ネットワークを有する
- 2024年6月3日にアジア最大規模のAIデータセンター開発を合意
- 今後もグローバルにAIデータセンターの建設と運営を追求

## 当社のグローバル展開



当社は20か国以上へ自社プロダクト展開の  
事業基盤を有する

日本	パナマ
インド	グアテマラ
オーストラリア	ホンジュラス
ニュージーランド	エルサルバドル
チリ	コスタリカ
コロンビア	スペイン
ペルー	メキシコ
アルゼンチン	米国・・・
エクアドル	
ボリビア	
ブラジル	
ウルグアイ	

## AIデータセンター事業を取り巻く環境

### AIデータセンターに必要な主要機能

### 業界が直面するチャレンジ

#### 開発時



GPU

NVIDIA社製品が市場で逼迫



サーバー等  
周辺機器

NVIDIA社のパートナーメーカーの  
生産キャパシティが逼迫



土地・設備

ゼロから開発する場合3年以上かかる



EPC

建設ラッシュで建設業者を確保できない

#### 運営開始後



AIクラウド運営

ハイパースケーラー級の最高効率・  
操作性のプラットフォームは開発が困難



データセンター  
運営

最新機器を運転できる知見を有する  
企業が限られる



電力

電力容量が日本中で逼迫



顧客開拓

競争に先んじて機能をテストしないと、  
大規模な顧客を確保は難しい



当社は、AIデータセンター事業が直面するチャレンジを克服することで、ハイパースケーラーに対しても競争優位性を獲得していく

## データセンター事業のチャレンジ

## データセクションの戦略

## 実現したビジネスモデル



### 以下課題を解決できる事業者のみがデータセンター事業で成功

- 政治リスクを回避しながら、GPU・サーバーを確保可能か
- AIデータセンターの基盤ソフトウェアの技術開発力を有しているか
- 早い速度で開発・建設を終えることが可能か
- 大量の電力キャパシティが確保できるか

### 技術を軸とした戦略的提携で業界のボトルネックを抑え、最速で事業化実現

- 1 台湾の強豪メーカーとパートナーシップを構築、優先的にGPU確保
- 2 2014年上場以降、技術者がAIクラウドを更に強化
- 3 業界経験を有する建設事業者と協業し、早期にキャパ計画を構築
- 4 電源はあるが稼働停止している工場をリパーパスする手法を確立、あるいは、既存データセンターを大口賃貸

### 当社の戦略により、すでに以下の実績を実現済み

- NVIDIA社の台湾の委託製造パートナー4社とGPU確保に関し協業で合意
- AIモデルの推論、GPUの効率を最大限発揮させるクラウドスタック『TAIZA』を開発
- 欧州・アジアで実績を持つCUDOやSSIと業務提携
- 著名データセンター事業者複数社とも関係構築

2024年11月15日／11月21日／12月2日／12月23日

**NVIDIA社のパートナーサプライヤーである台湾メーカー4社と業務提携の基本合意。**  
**大阪府堺市やスペイン向けを始めとしたGPUサーバーラックについて、製造キャパシティを継続協議**

## NVIDIA社はパートナーのサーバーメーカーが存在



## サーバー調達の分散化とボリューム確保状況 (サーバーサプライヤー別の交渉状況)



NVIDIA 台湾、台北 Computex -- (2017年5月30日) - NVIDIA (NASDAQ: NVDA) は、より迅速に AI クラウドコンピューティングの需要に応えるため、世界有数の ODM である Foxconn、Inventec、Quanta、Wistron とのパートナープログラムを開始しました。

NVIDIA HGX パートナープログラムを通じ、NVIDIA は、各 ODM に NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャ、NVIDIA GPU コンピューティングテクノロジー、デザインガイドラインの早期アクセスを提供します。HGX は、Microsoft の Project Olympus の取り組み、Facebook の Big Basin システム、NVIDIA DGX-1™ AI スーパーコンピューターにおいて利用されているのと同じデータセンター向けに設計されています。

HGX をスターター向けの「レシピ」として利用する ODM パートナーは、NVIDIA と協力し、ハイパースケールデータセンター向けの条件を満たす、さまざまな GPU アクセラレーテッドシステムをより迅速に設計し、市場化することができます。NVIDIA のエンジニアは、このプログラムを通じて ODM とより緊密に協力し、技術の採用から実動環境への展開までの時間が最短になるよう支援します。



NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャ



Supplier	Revenue (2023)	Agreement Date
Supermicro	-	2024/4/12
Inventec	(売上高2兆3,642億円, 2023)	2024/11/15
Wistron	(売上高3兆9,824億円, 2023)	2024/11/21
Giga Computing	-	2024/12/2
Quanta Computer	(売上高4兆9,86億円, 2023)	2024/12/23

出典：日本経済新聞「鴻海、AIサーバーで稼ぐ 14日に4~6期決算)2024年8月13日)」

## 2 当社が開発するDSクラウドスタック『TAIZA』はハイパースケーラーと同等以上の性能を保持・正式ローンチ

2025年3月31日

オープンソースなAIモデルを使用しての推論（AIモデル同士で出力結果の検証・洗練の推進）が、効率的、柔軟、手軽に出来る初めてのクラウド基盤ソフトウェア。顧客による段階的なテストも実施

### 圧倒的な操作性・効率性を実現

#### AIモデルの開発・アウトプット洗練に特化



#### Configuration

NVIDIA製GPUでの分散トレーニング実行をテスト済み

複数のオープンソースのAIモデルを並列で組み込み、推論可能



#### Proprietary Acceleration

AIモデル開発のパフォーマンスを向上させるための専用の技術を実装

要求精度と工数の自動balancingや、自動でのメモリ冗長性削除等



#### Automatic Sharding

待機状態のGPU等のリソースを自動で特定、パイプラインを割振り

AIフレームワーク間をパラメーター数などに応じ並行して移行可能



#### Flexible API Interface

必要リソース・AIフレームワークを2,3ステップで選択し、すぐに開発開始

顧客の開発ニーズに合わせてデフォルトで仕様環境を準備

AIデータセンター運営に特化したクラウドスタックの開発を行えるエンジニアの技術力

2024年10月7日

**データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つSSI社と、AIデータセンターの設計、調達、建設および運営に関するEPC（Engineering Procurement and Construction）の業務提携に関する基本合意を締結**

#### 経営によるコメント

- //** データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つ SSI社と本基本合意を締結し、AIデータセンターの設計・建設・運営におけるリーディングカンパニーとして、革新的なソリューション提供を目指し、次世代のAIデータセンターのスタンダードを確立し、より持続可能で効率的なサービスの提供を実現します
- //** 本基本合意に基づき、SSI社は当社のEPCコントラクターとして共同で日本国内外でのAIデータセンターの設計、調達、建設、運営に関する業務を担うこととなります。また、SSI は AI データセンター建設後の運用・保守業務も担当し、新たなAIデータセンタープロジェクトの組成、資金調達、推進にも取り組みます

(1) 名称	株式会社信越科学産業	
(2) 所在地	長野県長野市大字南長野西後町610-12 R-DEPOT3階N-西	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役会長 小坂 幸太郎 代表取締役社長 佐坂 五郎	
(4) 事業内容	・データセンター設計・建設	
(5) 資本金	999万円	
(6) 設立年月日	2015年12月28日	
(7) 大株主及び持株比率	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	
(8) 上場会社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。
(9) 経営成績及び財政状態	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	

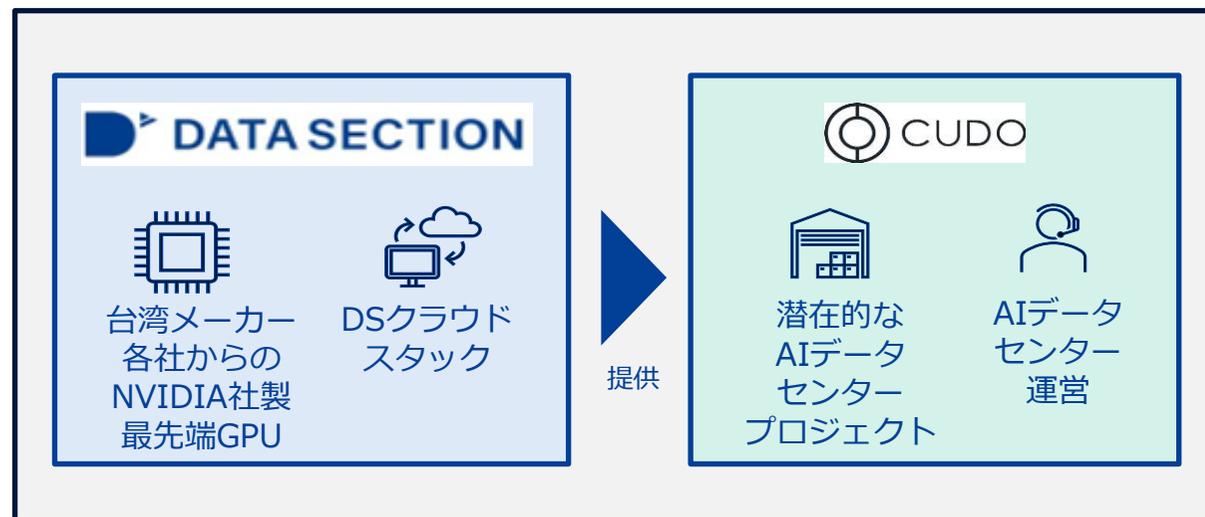
2025年2月6日／2025年6月2日

NVIDIA社認定のAIパートナー（NVIDIA Cloud Partner、以下「NCP」）のCUDO Ventures（以下「CUDO社」）とAIデータセンター事業にかかる業務提携契約を締結、両者間の資本提携（子会社化）についても基本合意し、共同プロジェクト推進のための合併会社（子会社）も設立。  
NVIDIA社製最先端GPU確保と、当社のDSクラウドスタックの早期提供が可能に

### CUDO社の概要

- 英国所在
- NVIDIA社認定のNCPとして、AIクラウドスタックとデータセンターインフラにの高い技術力を有する
- AI用に何千ものNVIDIA社のGPUを米国、中東・アフリカ、ヨーロッパ、アジアで管理・運用しており、GPUaaS、ストレージ、ネットワークング、マネージドサービス提供
- 2024年5月にNCP認定を受けて以来、AIデータセンターの業容拡大が加速

### 本提携の内容



- CUDOとの提携によりAIデータセンターの稼働へ向けた必須要素全てが早期に揃う
- CUDO社が運営を行う潜在的プロジェクトに、NVIDIA社製最先端GPUの確保、当社のDSクラウドスタックを早期に提供可能に

出典：CUDO

2025年3月10日

大規模インフラ、クラウド、大規模AIイニシアティブを中心にクラウド&データセンター領域で20年以上のリーダーシップ経験を持ち、様々な著名企業で重役を担ってきたJuan Manuel (Juancho) Irigaray 氏（以下「Juancho氏」）を招へい

### ■ Juancho 氏の当社グループへの参画

- 当社グループにおけるヨーロッパを中心に世界でのAIデータセンター事業の拡大・成長に向けた取り組みをさらに加速
- Juancho氏はMicrosoft、Amazon Web Services、Equinixなどの企業でCレベルの戦略的役割を担い、数百万米ドル規模のプロジェクトを指揮
- Juancho氏はオピニオンリーダーとしても知られており、AWS re:Invent、Kubecon、MoneyLIVE Digital Conferenceなどの国際会議でクラウド専門家として講演

### ■ Juancho氏の略歴

- Microsoft :  
カントリーエンジニアリード- Azure 拡大、各国政府向けMicrosoft クラウド
- Amazon Web Services, スペインおよびデンマーク :  
スペインのパートナーマネジメントソリューションアーキテクトチーム責任者およびデンマークのエンタープライズセグメント責任者
- Equinix, EMEA :  
プロフェッショナルサービスおよびグローバルソリューションアーキテクト ディレクター
- CloudMas, CTO 兼共同創業者 :  
クラウドテクノロジーおよびビジネス開発チームを率い、AWS市場の開拓を主導し、スペイン初のAWSプレミアパートナーとなる

- ・ GPU確保、及びプロジェクト開発に必要となる資金調達のためファンドは設立済み
- ・ プロジェクトの状況に応じて検討

項目		詳細												
1	名称	DS AI Infrastructure Global Investment Fund												
2	所在地	ケイマン籍												
3	組成目的	グローバルでのAIデータセンターへの出資 (ファンドはAIデータセンターを運営する会社の株式を保有)												
4	組成日	プロジェクトの状況に応じて検討												
5	ファンド出資	目標20億米ドル												
6	General Partner (GP)	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>DS AI Investment (仮称)</td> </tr> <tr> <td>投資チーム</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pablo Casado Blanco (当社会長)</li> <li>■ 石原紀彦 (当社代表取締役社長CEO)</li> <li>■ Matias Jurado Alvarez 他</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>アドバイザリーボード</td> <td>HE Anders Fogh Rasmussen (NATO元事務総長、デンマーク元首相) 他</td> </tr> <tr> <td>Co-GP</td> <td>欧州系銀行がCo-GPとして参加を検討中</td> </tr> <tr> <td>GP出資額</td> <td>ファンド総額の1.0% (キャピタルコール方式*)</td> </tr> <tr> <td>GP報酬</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ファンド総額の2.0% (年率)</li> <li>■ キャリドインタレストの20.0% (8.0%のハードルレート)</li> </ul> </td> </tr> </table>	名称	DS AI Investment (仮称)	投資チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pablo Casado Blanco (当社会長)</li> <li>■ 石原紀彦 (当社代表取締役社長CEO)</li> <li>■ Matias Jurado Alvarez 他</li> </ul>	アドバイザリーボード	HE Anders Fogh Rasmussen (NATO元事務総長、デンマーク元首相) 他	Co-GP	欧州系銀行がCo-GPとして参加を検討中	GP出資額	ファンド総額の1.0% (キャピタルコール方式*)	GP報酬	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ファンド総額の2.0% (年率)</li> <li>■ キャリドインタレストの20.0% (8.0%のハードルレート)</li> </ul>
	名称	DS AI Investment (仮称)												
	投資チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pablo Casado Blanco (当社会長)</li> <li>■ 石原紀彦 (当社代表取締役社長CEO)</li> <li>■ Matias Jurado Alvarez 他</li> </ul>												
	アドバイザリーボード	HE Anders Fogh Rasmussen (NATO元事務総長、デンマーク元首相) 他												
	Co-GP	欧州系銀行がCo-GPとして参加を検討中												
	GP出資額	ファンド総額の1.0% (キャピタルコール方式*)												
GP報酬	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ファンド総額の2.0% (年率)</li> <li>■ キャリドインタレストの20.0% (8.0%のハードルレート)</li> </ul>													
7	Limited Partner (LP)	主に欧州銀行、AIデータセンターの連携パートナー企業を中心に投資予定												

\* キャピタルコール方式：ファンドの投資進捗に応じて、出資コミットメント金額の範囲内で段階的に資金提供



既存プロジェクト実現を通じた  
安定収益の獲得

2025年3月期

- 技術検証、サービス体制構築、顧客契約締結
- DSAIファンドの形成による実行資金の確保、GPロールの開始
- 国内外のデータセンター事業運用開始、売上計上を目指す

現行ビジネスモデルのグローバル  
拡大による成長

2026年3月期

- 第1号データセンター事業運用開始および型紙化と、国内外での更なる案件の積み上げ
- アルゴリズムの進化と、冷却技術の開発協力により、高効率なAIデータセンター運営の手法を確立
- プロジェクトの状況に応じて、ファンドを通じた資金調達の拡大

AIデータセンター事業の対象顧客  
の拡大、および資産を入れ替え

2027年3月期以降

- 現行ビジネスモデルの規模・安全性進化により、安全保障上不可欠となる国家プロジェクトへの参画 (欧州・米国・日本)
- 借入・株式・ファンド等の手法を通じて資金調達を最大化し、ハイパースケーラーのポジションを確立
- 資産の入れ替えと、中古サーバーの再利用を通じてさらなる事業拡大・継続

\* 太線および下線部箇所：前回より更新

## 4. 新株予約権の行使状況

- 第20回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行
- 資金需要や市場環境等を勘案し、より柔軟かつ機動的な資金調達を行うとともに、既存株主の持分の希薄化への影響に配慮しながら自己資本を増強することが可能な設計

## 第20回新株予約権（行使価額修正条項付）

割当先	ハヤテマネジメント株式会社 (以下「ハヤテ」)
基準株価	688円
当初行使価額	688円 ※基準株価の100%
行使価額の修正	直前取引日の終値×90%（1円未満切り上げ）
下限行使価額	344円 ※基準株価×50%
発行価額	総額15,488,000円（1個当たり3.52円）
発行新株予約権数	44,000個（1個当たり100株）
行使期間	2025年3月7日～2026年3月6日（1年間）
調達予定金額*	3,009,200,000円 @ 当初行使価額 = 688円 1,495,600,000円 @ 下限行使価額 = 344円
希薄化率**	24.85%
資金使途	(1)DSクラウドスタックの開発・構築資金 (2)AIデータセンター運営関連の合併会社向け出資、DSAIファンド向け出資 (3)採用費、人件費、手元資金等の運転資金 (4)借入金返済

\* 当初行使価額×総発行株数－発行諸費用概算で算出。発行価額の総額は、割当予定先の当社に対する貸付債権との相殺による払込みとなるため、調達予定金額には含まず

\*\* 本新株予約権がすべて行使された場合に交付される株式数4,400,000株（議決権の数44,000個）となり、2025年2月13日現在の当社の発行済株式総数17,703,051株（2024年9月30日（当社が総議決権を確認できる本発行決議日から最も近い日）現在の総議決権数176,279個）に占める割合が24.85%（議決権ベースの希薄化率は24.96%、いずれも小数点以下第3位を切り捨て）に相当

- 第20回新株予約権（行使価額修正条項付）の公表済み行使状況まとめ
- 2025年7月11日をもって、発行した全ての新株予約権を行使

2025年3月7日以降：

**全量4,400,000株（発行総数割合100%）、4,673,483,200円の払込金額**

2025年3月7日～31日：	92,900株	（発行総数割合2.11%）	、	87,267,608円
2025年4月1日～31日：	302,200株	（発行総数割合6.87%）	、	207,936,444円
2025年5月1日～31日：	1,922,600株	（発行総数割合43.70%）	、	1,347,437,752円
2025年6月1日～30日：	1,019,600株	（発行総数割合23.17%）	、	1,148,569,092円
2025年7月1日～11日：	1,062,700株	（発行総数割合24.15%）	、	1,882,272,304円

## 5. 新株予約権に係る発行登録

- ・ 1号案件のプロジェクトが進捗するなかで、並行して多額の資金を必要とする複数の大型見込パイプラインの確度が高まっている
- ・ 一定のプロジェクト利益を確保しつつ、事業機会を逸することなく獲得し、財務基盤の強化を図るため、相当規模の自己資金を機動的に確保することが必要と判断

## <概要>

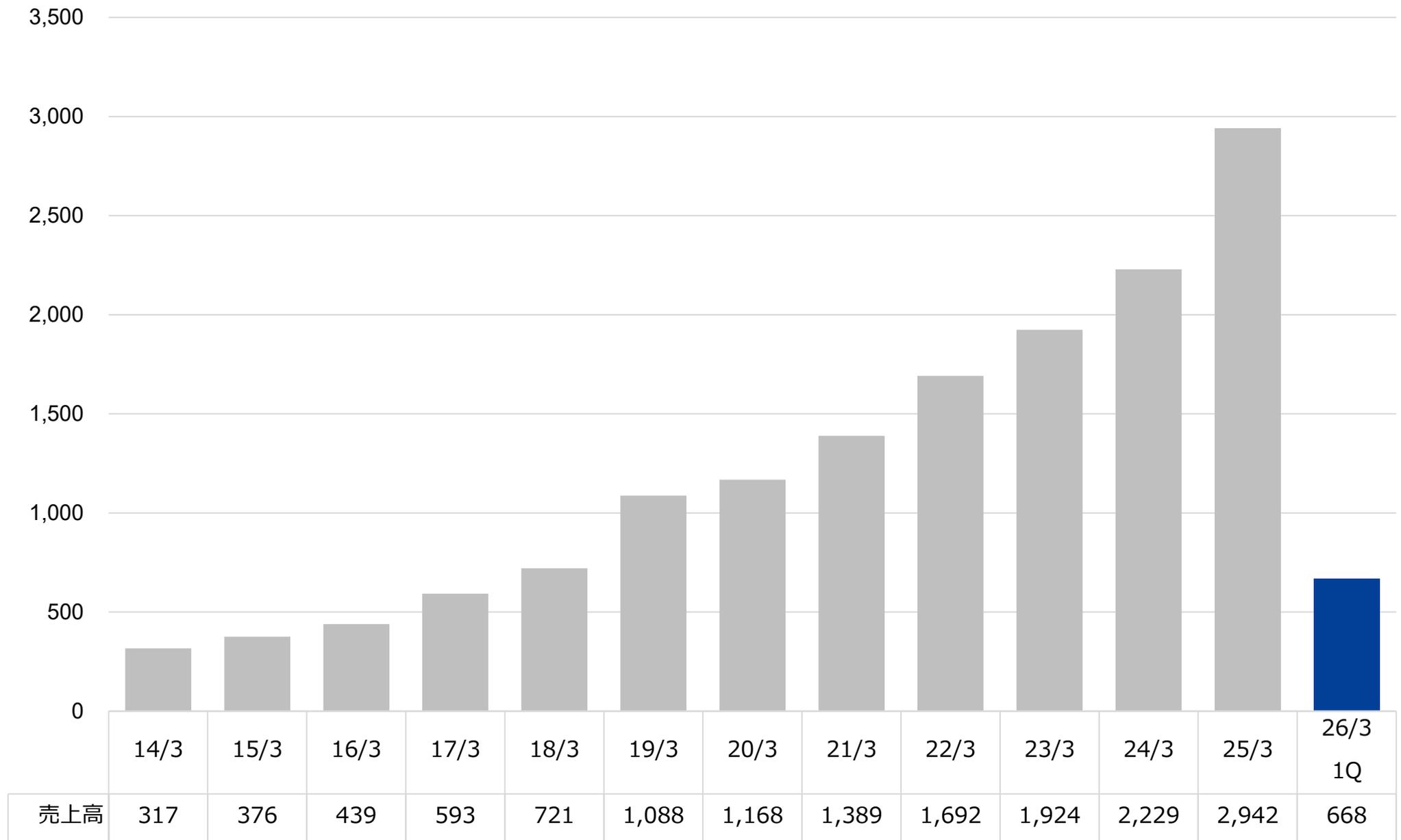
1. 募集有価証券の種類：  
新株予約権証券
2. 発行予定期間：  
発行登録の効力発生予定日から1年間（2025年8月20日から2026年8月19日まで）
3. 募集方法：  
第三者割当  
全てをFirst Plus Financial Holdings Pte. Ltd.（以下、「First Plus社」）へ割当\*
4. 発行予定額：  
78,000百万円を上限
5. 調達資金の用途：  
AIデータセンター事業における設備投資資金及び運転資金等に充当予定

\* 2025年8月以降の取締役会及び臨時株主総会における承認を受けることが条件

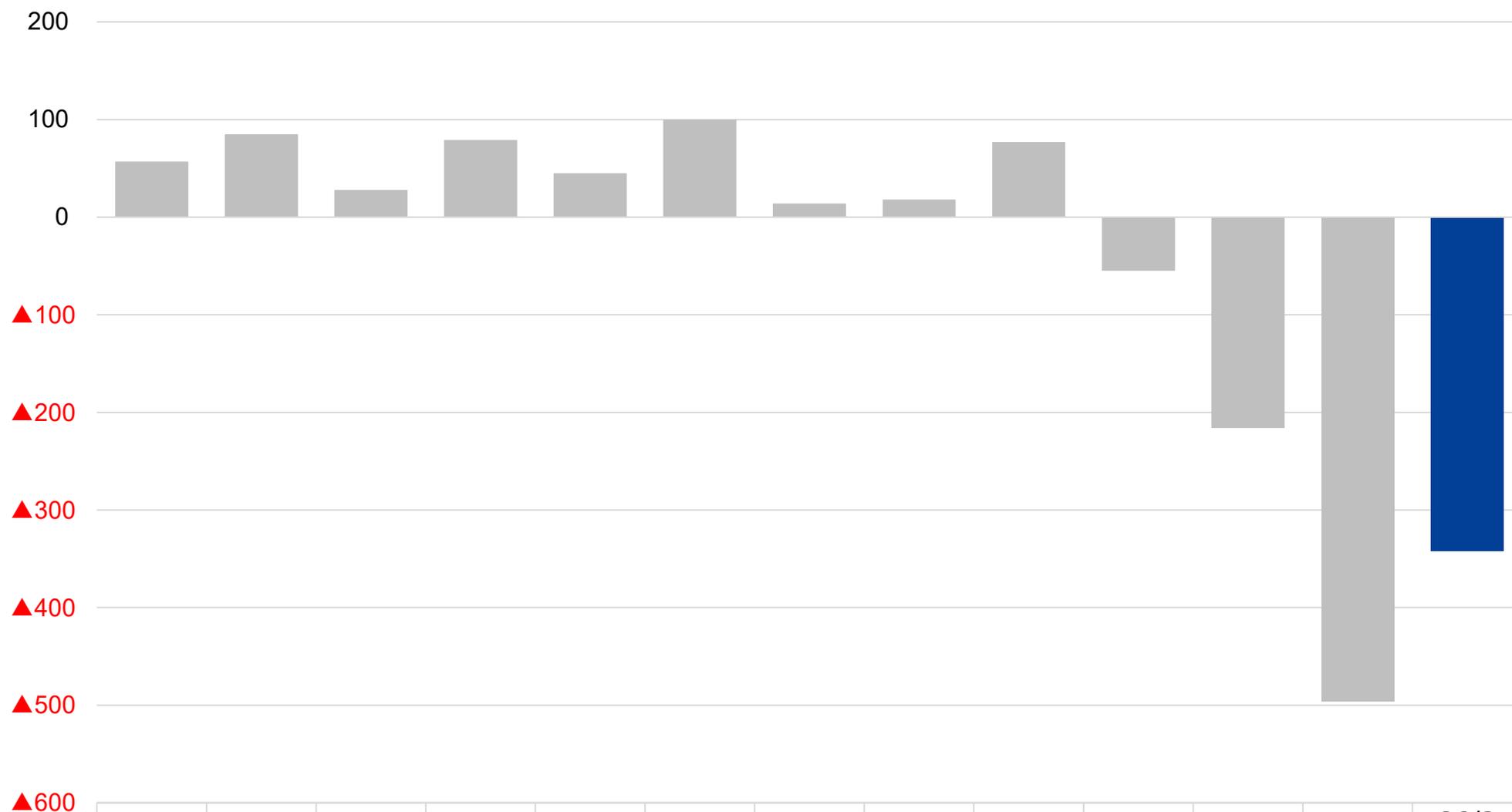
\* 専ら資金調達を目的とし、First Plus社に対する経営権の付与を意図したものではないため、First Plus社の議決権比率が一定割合を超えないスキーム

# 6 . Appendix

(単位：百万円)



(単位：百万円)



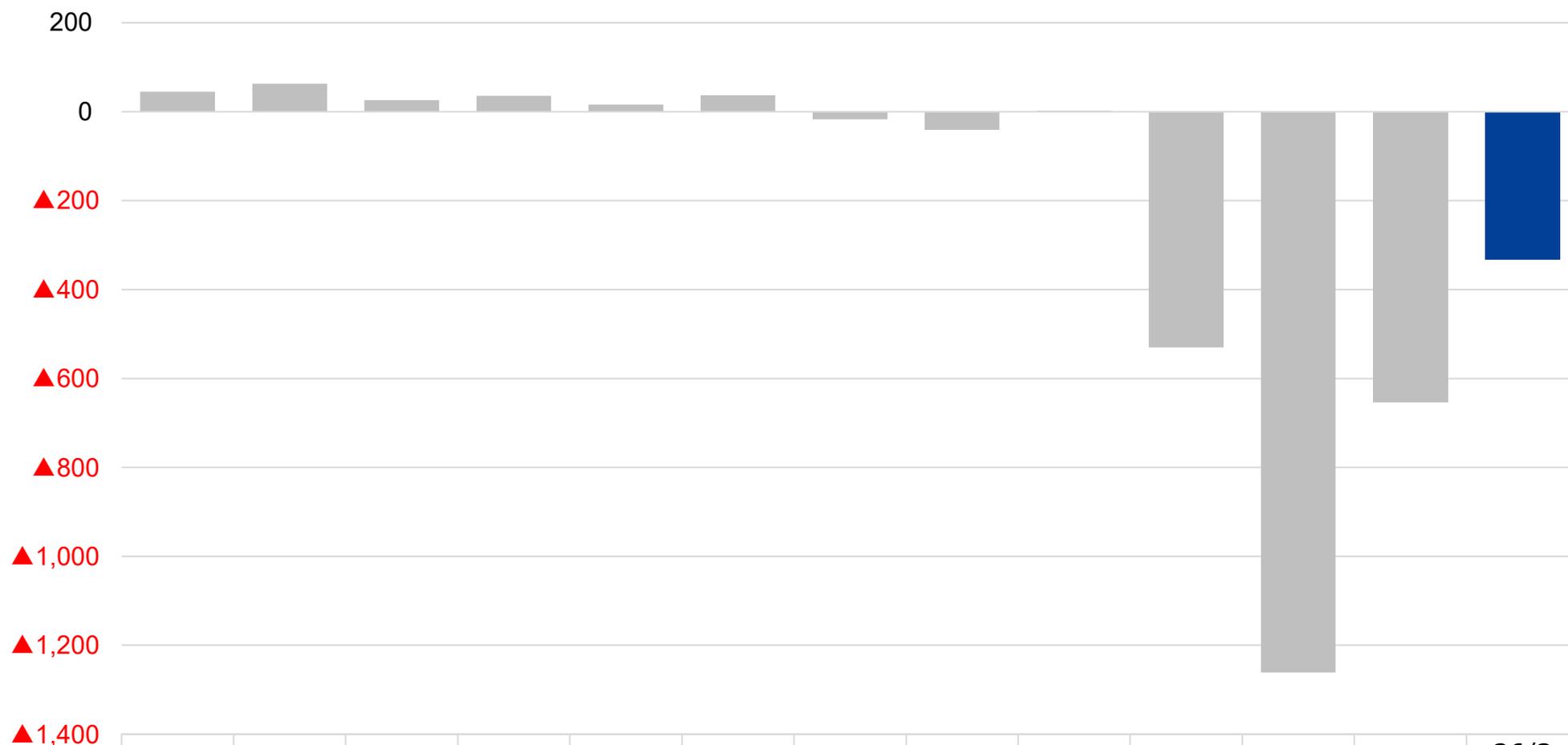
	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3 1Q
営業利益	57	85	28	79	45	100	14	18	77	▲55	▲216	▲496	▲342

(単位：百万円)



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3 1Q
經常利益	60	85	36	71	45	95	5	31	165	46	▲235	▲613	▲317

(単位：百万円)



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3 1Q
親会社 株主帰属 当期純利益	45	63	26	36	16	37	▲17	▲41	2	▲530	▲1,261	▲654	▲333

# データセクション株式会社

ir@datasection.co.jp  
050-3649-4858

〒141-0031

東京都品川区西五反田 1 丁目 3 - 8 五反田PLACE 8階

<https://www.datasection.co.jp>

## 注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。